



2006 年

No.32

12 月

Japanese Society of Alternative to Animal Experiments

日本動物実験代替法学会

目 次

1	日本動物実験代替法学会第20回大会ご案内	2
2	平成18年日本動物実験代替法学会 研究助成の申請結果について	12
3	第6回国際動物実験代替法会議(WC6)の近況 事務局(小島 肇)	13
	行事・接遇委員会	14
	広報委員会	14

日本動物実験代替法学会第20回大会ご案内

日時：2006年12月8日(金)～9日(土)
会場：東京大学駒場Ⅱキャンパス・総合実験研究棟
コンベンションホールおよびホワイエ
〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1

- 日時：2006年12月8日(金)・9日(土)
- 会場：〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1
東京大学駒場Ⅱキャンパス内・総合研究実験棟(An棟)2階コンベンションホール(口演)
・隣接するポスター会場(ホワイエ)。小田急線東北沢駅・井の頭線駒場東大前駅から徒歩7分程度で到着できます。いわゆる「東京大学教養学部」(駒場Ⅰキャンパス)とは異なりますので、ご注意ください。○
キャンパスおよびキャンパス内ビル配置については、以下のウェブページをご覧ください。
<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/map/index.html>
- 大会HP：<http://www.soc.nii.ac.jp/jsaae/>
- 大会長：東京大学大学院医学系研究科・疾患生命工学センター、同大学生産技術研究所(兼務) 酒井康行
- 組織委員会(プログラム編成)：鍵山直子(実験動物中央研究所)、大野泰雄(国立医薬品食品衛生研究所)、林真(国立医薬品食品衛生研究所)、田中憲穂(食品薬品安全性センター・秦野研究所)、小島肇(JaCVAM, 国立医薬品食品衛生研究所)、竹澤俊明(農業生物資源研究所)、関島勝(三菱化学安全科学研究所)、門前哲也((財)石川県産業創出支援機構)、秋田正治(鎌倉女子大学)、奥村秀信((株)ノエビア・神戸研究所)、大内淳子(花王(株)・安全性評価センター)
- 実行委員会・事務局：
・事務局員：小森喜久夫(事務局長)、小島伸彦、鶴達郎、清水敦子
・東京大学生産技術研究所 物質・環境系部門 酒井康行研究室内
・TEL 03-5452-6349 または 6352, FAX 03-5452-6353, E-MAIL jsaae20@iis.u-tokyo.ac.jp ○
- 懇親会：12月8日(金)18:00-20:00, ホワイエ(ポスター会場)にて

大会プログラム

12月8日(金)

9:00-11:30 (コンベンションホール)

シンポジウム1: アジアにおける動物実験と3Rs

司会: 鍵山直子(実験動物中央研究所)、大野泰雄(国立医薬品食品衛生研究所)

趣旨: 欧米に源流のある動物実験の3R原則は、わが国の動物愛護法にも明記されるなど、アジア地域においてもその広がりを見せている。人体への安全性を担保するための動物使用においてもより一層の洗練化の推進と共に、科学的評価を経た代替法の導入による代替や削減の推進が求められている状況にある。一方、2007年8月には東京でアジア圏初の代替法世界大会の開催が予定されており、その直前に北京及びソウルにて各国の動物実験や代替法関係研究者によるサテライトシンポジウムも行われる。そこで本シンポジウムにおいては、動物実験および3Rをめぐる各国(インド・韓国・中国)の現状についてそれぞれ専門家から講演をしていただき、今後のあるべき方向を議論したい。

S1-1 3Rの原則に基づく動物実験の洗練

鍵山直子、野村達次(実験動物中央研究所)

S1-2 3Rs in India: Past, Present and Future

Mandeep S. Dhingra (Government Med. College, India)

S1-3 Current Status of 3Rs in China

He Zhengming¹, Li Guanmin¹, Yue Bingfei¹, Ahang Baoxu², Zhao Demin³ (¹National Institute for the Control of Pharmaceutical and Biological Product, P. R. China, ²Beijing University, P. R. China, ³Chinese Agriculture University, P. R. China)

S1-4 Current Status of Alternative Study in NITR (National Institute of Toxicological Research)

Park Kuilea (NITR, KFDA, Korea)

11:30-12:30 (403号室)

評議委員会

12:30-13:30 (コンベンションホール)

特別講演

司会: 林 真(国立医薬品食品衛生研究所)

SL ECVAMS Role in Making Alternative Methods Available for New European Legislation

T. Hartung (ECVAM)

趣旨: 新たな化学物質管理体系としてEUでの導入が検討されているREACHへの対応について、代替法の意義とECVAMの戦略、急性毒性・発生毒性・感作性の代替法開発のためのEUプロジェクト等、についてお話をお願いします。

13:30-15:30 (ホール横ホワイエ)

ポスター発表(一般講演)

15:30-18:00 (コンベンションホール)

特別企画1: 動物実験代替法に関する最近の国内外の動向

司会: Leonard M. Schechtman (US-FDA)、林 真(国立医薬品食品衛生研究所)

趣旨: 動物実験代替を巡る国内外の動向を一括して紹介する企画です。動物実験代替を巡るEUの動きはDr. Thoams Hartung (ECVAM)が特別講演で詳細に紹介しますので、本企画では、特に米国そして日本国内の動向について各分野の代表者の方々にご講演をお願いします。

第1部 国際状況

T-1 代替法を巡るICCVAMの状況について

(The evaluation of alternative test methods by ICCVAM – Current practices and activities)

L. M. Schechtman

(Chair of ICCVAM, Deputy Director, National Center for Toxicological Research, US-FDA)

T-2 代替法を巡る NICEATM の状況について (仮題) Raimond Tice (NICEATM)

T-3 代替法を巡る ECVAM の状況について (仮題) Thomas Hartung (ECVAM)

第2部 国内状況

T-4 厚生労働省における動物実験代替への取り組み (仮題) 厚生労働省より (演者交渉中)

T-5 国内において現在進行中の評価試験プロジェクト紹介 小島 肇 (JaCVAM)

T-6 経済産業省の *in vitro* 系簡易有害性手法開発への取り組み 沼舘 建 (経済産業省)

T-7 経済産業省/NEDO プロジェクトにおける *in vitro* 発がん性試験手法の開発

田中憲徳 (食薬センター)

* 公開討論会は行いません。

18:30-20:00 (ホール横ホワイエ)

懇親会

12月9日 (土)

9:00-11:30 (コンベンションホール)

シンポジウム2: 代替法における新技術の可能性

司会: 竹澤俊明 (農業生物資源研究所)、関島 勝 (三菱化学安全科学研究所)

趣旨: 代替法が法的な拘束力を持つためには多施設での評価とそれらのバリデーションを経ていく必要がありますが、簡便・高感度・高予測性を目指す新たな代替法の開発のためには、様々な周辺新技術の導入の可能性を模索する必要があります。そこで本シンポジウムでは、生体内構造を模倣する機能細胞の新たな培養法、マイクロパターン化技術、幹または前駆細胞の利用、イメージング技術を利用した高感度簡便試験法、正常細胞データと ADME を記述する数理モデルの融合法、などについて以下の方々にご講演をお願いしています。

S2-1 生体内細胞応答を外挿する培養モデル開発

竹澤俊明 ((独) 農業生物資源研究所)

S2-2 パターン化マイクロティッシュ培養法

大塚英典 (東京理科大学)

S2-3 ヒト間葉系幹細胞から分化誘導した肝細胞の機能解析

落谷孝広 (国立がんセンター研究所)

S2-4 創薬初期段階における *in vitro* および *in silico* Phospholipidosis Assay の応用

山田 弘、富澤香織、堀井郁夫 (ファイザー (株))

S2-5 コンピュータープログラムを用いたシミュレーションによる薬物間相互作用の定量的予測

設楽悦久¹、加藤基浩²、北島正人³、J. M. Ciloy³、平野 雅⁴、吉末訓弘⁴、池田敏彦⁵、鈴木 聡⁶、堀江利治¹、杉山雄一⁴ (1千葉大学、2中外製薬、3富士通九州、4東京大学、5三共、6HAB 研究機構)

12:00-13:00 (コンベンションホール)

ランチョンシンポジウム ((財) 石川県産業創出支援機構協賛):

ナノバイオ動物代替デバイスによるライフケア製品の評価と開発

司会: 門前哲也 ((財) 石川県産業創出支援機構)

趣旨: 培養細胞を用いて、機能性食品や化粧品などの素材のスクリーニングや開発品の評価に利用できる新しい動物試験代替デバイスの構築を目指す地域新生コンソーシアム研究開発事業「ナノバイオ動物代替デバイスによるライフケア製品の評価と開発」プロジェクトについてお話をお願いしています。

LS 動物代替細胞チップの開発

民谷栄一 (北陸先端科学技術大学)

小胞体ストレス制御に基づくライフケア製品の評価と開発

堀 修 (金沢大学)

免疫賦活化活性を探索するための動物代替評価系の確立と天然薬物
高野 史英 (金沢大学)

13:00-14:00 (コンベンションホール)

日本動物実験代替法学会総会
(JSAAE General Meeting)

15:00-17:00 (コンベンションホール)

特別企画2 ((株)ノエビア協賛)

司会：秋田正治 (鎌倉女子大学)、奥村秀信 ((株)ノエビア)、大内淳子 (花王 (株))
教育現場における3Rに対する新たな取り組み

-第一回動物実験代替法チャレンジコンテスト-

- 趣旨：全国の中高生を対象としており、教育現場における3Rの精神を啓蒙するため動物実験代替法に関する基礎・応用研究を積極化する機会を提供し、併せて日本における本学会のすそ野の拡大に寄与しようとするものです。学生の自由な発想によるツール、試験方法、解析法などを全国から募集し、審査の上優秀な研究を寄せたグループ (または個人) を表彰します。
*特別企画2のみの参加される場合には、参加費を無料とすることとします。

ポスターセッション (一般講演)

- P-01. 胎児培養法を用いたギムネマのラット胎児に対する影響について
横山 篤¹、秋田正治²、R. O. ランパード³、黒田行昭⁴ (1神奈川生命科学研究所、²鎌倉女子大、³米国健康食品協会、⁴国立遺伝学研究所)
- P-02. 胎児培養法を用いたデビルクロー (DC) の培養ラット胎児に対する影響について
横山 篤¹、秋田正治²、R. O. ランパード³、黒田行昭⁴ (1神奈川生命科学研究所、²鎌倉女子大、³米国健康食品協会、⁴国立遺伝学研究所)
- P-03. 胎児培養法を用いたトリコエノールのラット胎児に対する影響について
横山 篤¹、秋田正治²、R. O. ランパード³、黒田行昭⁴ (1神奈川生命科学研究所、²鎌倉女子大、³米国健康食品協会、⁴国立遺伝学研究所)
- P-04. ES細胞を用いた発生毒性試験法におけるガラス繊維素材の活用について
今井弘一、中村正明 (大阪歯科大)
- P-05. Anxiolytic Effects of Kava (Piper Methysticum) in Mice
Ashkan Mowla and Reza Gharebaghi (Iran and Shahed University, Iran)
- P-06. *In vitro*に再構築されたウサギ培養角膜上皮細胞を用いた眼刺激性試験法の作製
前田泰宏¹、仁木 保¹、古本佳代²、古川敏紀²、竹花一成³、植田弘美³、伊藤典彦⁴ (1アルブラスト (株)、²倉敷芸術科学大、³酪農学園大、⁴横市大)
- P-07. 化粧品及び化学品 51原料の眼刺激性予測における短時間曝露法 (STE試験) の有用性と2施設間再現性評価
高橋 豊¹、林 卓巳²、大関美麗¹、伊藤勇一¹、桑原裕史²、坂口 斉¹、鈴木尋之¹ (1花王 (株)、²カネボウ化粧品)
- P-08. 皮膚透過性の種差及びヒト爪を用いた透過性の検討
森山博夫、田崎健二、上田智哉、川上香織、入田智絵美、杉本健二 ((株)パナファーム・ラボラトリーズ)
- P-09. 培養細胞を用いた皮膚刺激性評価
石井 宏¹、藤城 亮¹、滝ノ上由文¹、加納 聡²、藤堂浩明¹、杉林堅次¹ (1城西大薬、²マルホ (株))
- P-10. メラノサイトを共培養したヒト3次元培養表皮モデルLabCyte MELANO-MODELの基礎的性質
浜島史泰、加藤雅一、伊藤有紀、久保健太郎、重田友美、畠賢一郎 ((株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング)

- P-11. OECD TG431に基づく皮膚腐食性試験でのヒト3次元培養表皮モデル「LabCyte EPI-MODEL」の評価
加藤雅一¹、浜島史泰¹、伊藤有紀¹、久保健太郎¹、梶賢一郎¹、中村未央²、篠田伸介² (¹(株) ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング、²(株) 薬物安全性試験センター)
- P-12. THP-1細胞の感作性物質によるアポトーシス誘導とCD86/54発現について
草井 啓、水野 誠、今井教安、岡本裕子 ((株) コーセー)
- P-13. ヒト単球由来細胞株を用いた光感作性試験代替法の開発
穂谷昌利、廣田衛彦、鈴木美絵、萩野滋延、板垣 宏 ((株) 資生堂)
- P-14. 難水溶性物質の評価を目的としたTHP-1細胞の三次元培養ゲルモデルの開発
石川牧恵、足利太可雄、萩野滋延、板垣 宏 ((株) 資生堂)
- P-15. *In vitro*皮膚感作性試験：h-CLAT (human Cell Line Activation Test) の日本における共同開発
(第2報) -適切なTHP-1細胞の選択基準の検討-
小坂七重¹、岡本賢二²、桑原裕史²、水野 誠³、岡本裕子³、菌さき子⁴、山田貴亮⁵、長谷川誠司⁵、吉田真由美⁶、太田尚子⁶、児玉達治⁷、佐藤 淳⁷、坂口 斉¹、足利太可雄¹、大野泰雄⁸ (¹花王、²カネボウ化粧品、³コーセー、⁴資生堂、⁵日本メナード化粧品、⁶ポーラ化成工業、⁷ライオン、⁸国立医薬品食品衛生研究所)
- P-16. *In vitro*皮膚感作性試験：h-CLAT (human Cell Line Activation Test) の日本における共同開発
(第3報) -血清の影響-
菌さき子¹、山田貴亮²、長谷川誠司²、小坂七重³、岡本賢二⁴、桑原裕史⁴、水野 誠⁵、岡本裕子⁵、吉田真由美⁶、太田尚子⁶、児玉達治⁷、佐藤 淳⁷、坂口 斉³、足利太可雄¹、大野泰雄⁸ (¹資生堂、²日本メナード化粧品、³花王、⁴カネボウ化粧品、⁵コーセー、⁶ポーラ化成工業、⁷ライオン、⁸国立医薬品食品衛生研究所)
- P-17. *In vitro*皮膚感作性試験：h-CLAT (human Cell Line Activation Test) の日本における共同開発
(第4報) -前培養に関する条件検討-
水野 誠¹、吉田真由美²、児玉達治³、佐藤 淳³、太田尚子²、岡本裕子¹、小坂七重⁴、岡本賢二⁵、桑原裕史⁵、菌さき子⁶、山田貴亮⁷、長谷川誠司⁷、坂口 斉¹、足利太可雄⁶、大野泰雄⁸ (¹コーセー、²ポーラ化成工業、³ライオン、⁴花王、⁵カネボウ化粧品、⁶資生堂、⁷日本メナード化粧品、⁸国立医薬品食品衛生研究所)
- P-18. 皮膚感作性試験代替法(LLNA-DA法)バリデーション研究
大森 崇¹、出原賢治²、小島 肇³、寒水孝司⁴、有馬和範⁵、後藤浩彦⁶、花田智彦⁷、五十嵐良明³、猪田健人⁸、金澤由基子⁹、小坂忠司¹⁰、牧 栄二¹¹、森本隆史¹²、篠田伸介¹³、篠田直樹¹⁴、武吉正博¹⁵、田中正志¹⁶、浦谷 衛¹⁷、宇佐美雅仁¹⁸、山中 淳¹⁹、米田知史²⁰、吉村 功²¹、湯浅敦子²² (¹京大、²ダイセル化学工業(株)、³国立医薬品食品衛生研究所、⁴阪大、⁵大正製薬(株)、⁶大塚製薬(株)、⁷日本新薬(株)、⁸中野製薬(株)、⁹(財)食品薬品安全センター、¹⁰(財)残留農薬研究所、¹¹(財)食品農薬品安全性評価センター、¹²住友化学(株)、¹³(株)薬物安全性試験センター、¹⁴参天製薬(株)、¹⁵(財)化学物質評価研究機構、¹⁶明治製菓(株)、¹⁷石原産業(株)、¹⁸ホーユー(株)、¹⁹ピアス(株)、²⁰トーアエイヨー(株)、²¹東理大、²²富士フイルム(株))
- P-19. 細胞表面-SH基を指標とした感作性試験代替法(SH-Test)の試験条件検討
廣田衛彦¹、鈴木美絵¹、萩野滋延¹、板垣 宏¹、相場節也² (¹(株)資生堂、²東北大)
- P-20. 細胞表面-SH基を指標とした感作性試験代替法(SH-Test)の試験判断基準の構築化
鈴木美絵¹、廣田衛彦¹、萩野滋延¹、板垣 宏¹、相場節也² (¹(株)資生堂、²東北大)
- P-21. Current studies on alternative methods in AMOREPACIFIC Corp.
Byung-Fhy Suh, Seong-Joon Moon, Su-Sun An, Seo-Young Kim, and Ih-Seop Chang (Skin Inst. AMOREPACIFIC R&D Center)
- P-22. 樹状細胞を含む3次元培養ヒト皮膚モデルの構築と皮膚感作性物質の*in vitro*評価法
内野 正¹、竹澤俊明²、五十嵐良明¹、徳永裕司¹ (¹国立衛研、²(独)農業生物資源研究所)
- P-23. 再生肝組織由来の切片担体を利用したES細胞の肝細胞様細胞への分化誘導技術
竹内朋代¹、寺谷 工²、落谷孝広²、竹澤俊明¹ (¹(独)農業生物資源研究所、²国立がんセンター研究所)

- P-24. ラット各臓器由来の切片担体上で培養した2種類の細胞株の挙動比較とその数理モデル
柳原佳奈^{1,2}、竹内朋代¹、寺田 聡²、三木正雄²、竹澤俊明¹ (¹(独) 農業生物資源研究所、²福井大)
- P-25. 化合物の光毒性予測における化学計算のアプローチ
周 玉、石橋麻子、藤川真章、崎村雅憲、山田 弘、堀井郁夫 (ファイザー (株))
- P-26. *In silico* 安全性予測システムの開発 (第1報) -Local Lymph Node Assay (LLNA) 予測モデルの開発-
米山桂子、上月裕一 ((株) 資生堂)
- P-27. *In silico* 安全性予測システムの開発 (第2報) -Human Patch Test 予測モデルの開発-
上月裕一、米山桂子 ((株) 資生堂)
- P-28. Stimulation Index の施設間再現性を評価する指標
大森 崇¹、寒水孝司² (¹京大、²阪大)
- P-29. 動物実験代替法のバリデーションにおける transferability の統計的評価法に関する研究
兵頭洋平¹、寒水孝司²、大森 崇³、浜田知久馬¹、吉村 功¹ (¹東理大、²阪大、³京大)
- P-30. 動物実験代替法バリデーション研究における被験物質割付の最適性に関する検討
高沼正幸¹、寒水孝司²、大森 崇³、浜田知久馬¹、吉村 功¹ (¹東理大、²阪大、³京大)
- P-31. 皮膚刺激性試験代替法における ET50 推定法
寒水孝司¹、白石亜矢子²、兵頭洋平³、浜田智久馬³、吉村 功³ (¹阪大、²ヤンセンファーマ (株)、³東理大)
- P-32. メチルパラベン (p-ヒドロキシ安息香酸メチルエステル) の光毒性試験
北山雅也¹、柏木 哲¹、桜井知子¹、Christopher P. Sambuco² (¹上野製薬 (株)、²チャールスリバー研究所)
- P-33. ヒト気管支上皮細胞株での p53 転写活性能を指標とした遺伝子毒性試験
大久保亮¹、西川昌輝¹、小島伸彦¹、小森喜久夫¹、大野克利²、東 幸雅²、米田幸生²、酒井康行¹ (¹東大、²日清食品 (株))
- P-34. アフリカツメガエル卵母細胞発現系を用いた腎臓薬物排出機構の代替法開発
坂田 武¹、安西尚彦²、大津尚子¹、成川新一¹、金井好克²、遠藤 仁^{1,2} (¹(株) 富士バイオメディックス、²杏林大)
- P-35. 形質転換細胞の遺伝子発現解析
弘瀬秀樹、須原 毅、河上祐紀、井上耕平、中山光二、関島 勝 (三菱化学安全科学研究所)
- P-36. *In Vitro* 小核試験の自動化法の評価
梶原大介 (GEヘルスケア バイオサイセンス (株))
- P-37. メダカ胚 cDNA マイクロアレイの開発および内分泌かく乱性化学物質のリスク評価へのその応用
平川育美¹、鏡 良弘¹、山下一郎² (¹(株) エコジェノミクス、²広島大)
- P-38. マイクロアレイによる新規感作性マーカーの探索
山田貴亮^{1,2}、長谷川靖司^{1,2}、赤松浩彦²、山本直樹²、山口弘毅¹、石井 泉¹、松永佳代子²、中田 悟¹ (¹日本メナード化粧品 (株)、²藤田保健衛生大)
- P-39. ラット正常肝細胞培養のための新規 PDMS 表面改質
西川昌輝、小島伸彦、山本貴富喜、藤井輝夫、酒井康行 (東大)
- P-40. 細胞転写印刷技術
服部秀志^{1,2}、大河内則彦²、黒田正敏²、長谷政彦² (¹東医歯大、²大日本印刷 (株))
- P-41. インクジェット技術を応用した細胞の3次元パターンニング
逸見千寿香、中村真人、西山勇一 ((財) 神奈川科学技術アカデミー)
- P-42. 異なる数の肝細胞を固定化したアレイチップの開発
名田 順、小森喜久夫、立間 徹、酒井康行 (東大)

大会中のお願い等

1. 講演要旨引換券
 - I. 同引換券は、当日会場受付にご提出のうえ、要旨集と登録票（名札）ケースをお受け取り下さい。
 - II. 引換券のない場合は、要旨集と登録票（名札）ケースのお渡しは致しかねますのでご注意願います。
2. 登録票（名札）
 - I. 登録票（名札）は、ご自身で名前と所属を記入し、登録票ケースに入れた後、当日会場ならびにその出入の際、必ず外部から見えるように胸につけて下さい。
 - II. もし登録票をつけていない場合、入場をご遠慮願いますので十分ご注意下さい。
 - III. 登録票は、学術講演会、懇親会会場等会期中すべてのところでご使用願います。
3. 懇親会
 - I. 懇親会参加手続完了者には登録票（名札）にマークを貼付しました。マークをはがさないように願います。
 - II. 懇親会参加の際に会場受付に名札を呈示願います。
4. 投票用紙
 - I. 投票用紙は、参加者全員の投票結果に基づいて、優秀なポスター（一般講演）「ゴールドプレゼンテーション賞」を選ぶときに使用するものです。
 - II. 12月8日（金）に行われるポスター発表（一般講演）の中で、最も優れていると思われるポスターを一件選び、12月9日（土）12時までに投票して下さい。
 - III. 投票箱は、受付に設置致します。
5. 12月9日（土）のランチョンシンポジウムでのお弁当を150名に配布致します。12月8日（金）シンポジウム1の終了後（11時30分頃）から受付にて、先着順にお弁当引換券を配布致します。
6. 特別企画2「教育現場における3Rに対する取り組み」は入場無料ですので、多くの方々の参加をお待ちしております。
7. 昼食は、キャンパス内にあるカフェテリアや生協食堂をご利用下さい（地図19頁参照）。なお、12月9日（土）は休業日ですので、土曜日の昼食はランチョンシンポジウムにご参加していただくか、キャンパス外の店舗をご利用願います。
8. 喫煙は指定された場所をお願い致します。
9. 4Fの401-402号室に休憩室を設けてありますので、ご自由にお使い下さい。
10. 旅行かばん、スーツケース等、大きな荷物はクローク（4Fの403号室）でお預かり致します。
11. 大会会場への車でのご来場はご遠慮願います。

大会発表要領

シンポジウム講演

1. ご自身のPC持込による液晶プロジェクタの使用を原則とします。
2. 各セッション開始30分前より係員が待機しますので、会場にて開始までに各自PCの接続チェックをお願い致します。また、同一のデータをバックアップしたUSBメモリーを必ずお持ち下さい。
3. 公演中の画面操作は、ご自身で行っていただきます。レーザーポインターは、大会事務局で用意致します。

ポスター作成・展示・説明要領

展示会場: ホール 横ホワイエ

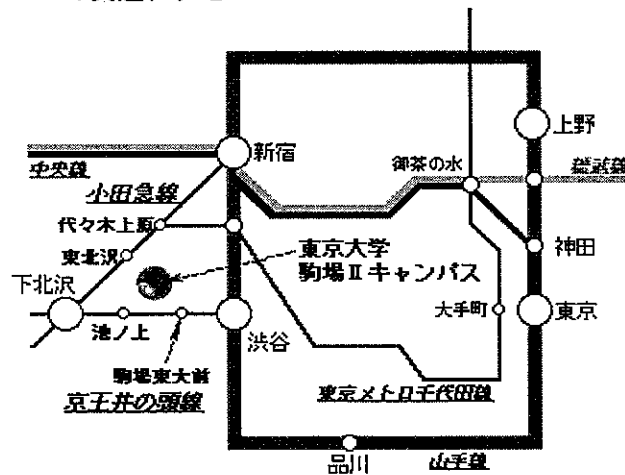
受付開始: 12月 8日 9時(受付にてリボンと画鋏をお受け取り下さい。)

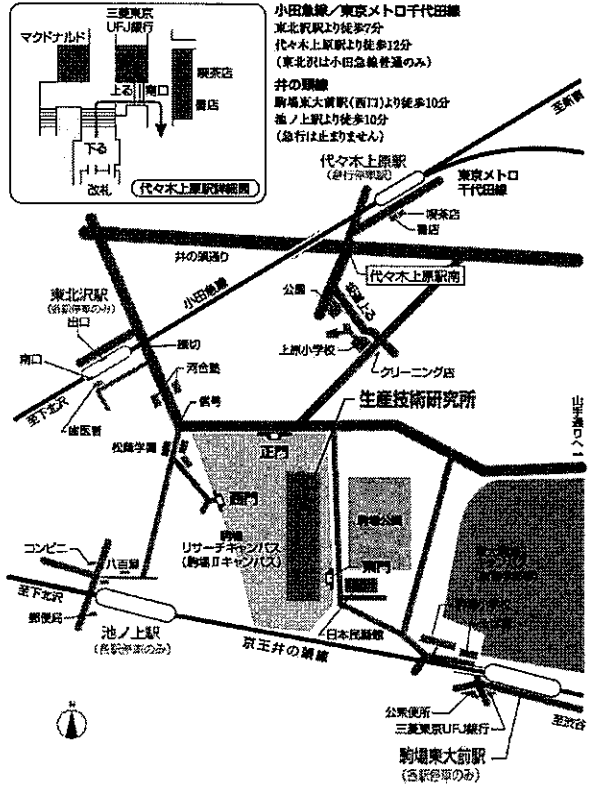
展示時間: 原則として12月8日(金)10時より9日(土)17時まで

1. ポスターは、幅 90 cm、高さ 150 cm 以内で作成して下さい。それを画鋏でポスターボードに貼っていただきます。画鋏は大会事務局で用意します。
2. ポスターボードには、大会事務局で演題番号を掲示しておきます。ポスターはそれに従って展示願います。
3. 発表当日、数グループに分けてポスター前で説明・質疑 応答時間を5分程度設定致します。発表者はリボンをつけて、ポスター前で説明願います。また、ポスター発表の時間内はご自分のポスターの前で説明をお願い致します。
4. 展示終了後は速やかに撤去願います。時間を 過ぎてもポスターを撤去されない場合には事務局にて処分いたします。
5. 優れた発表には、「ゴールドプレゼンテーション賞」が授与されます。

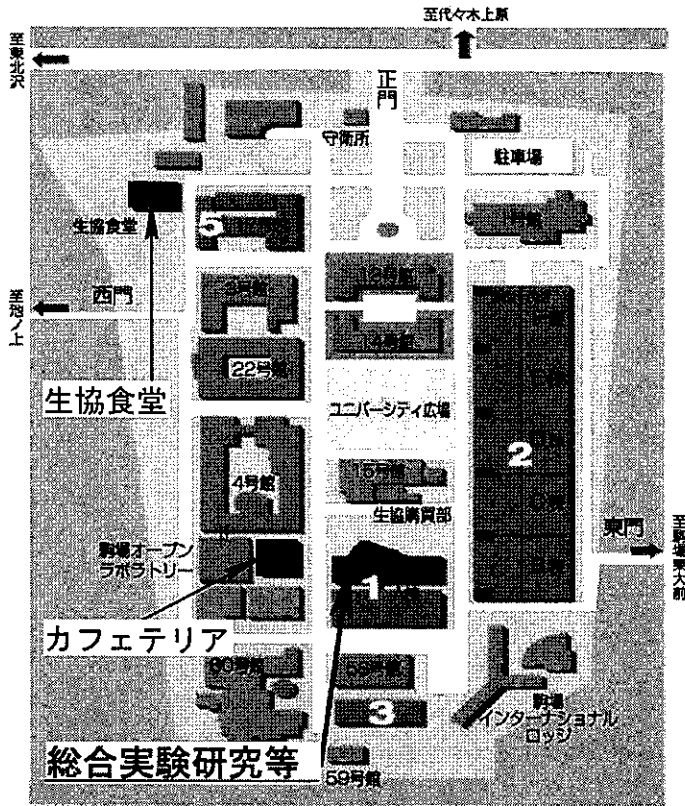
日本動物代替法学会第20回大会会場案内

東京大学・駒場 II キャンパスへの交通アクセス





講演会場へのアクセス



謝 辞

本大会を運営するにあたり、下記の企業からご援助を賜りました。
ここに記して深く感謝申し上げます。

【協賛】

花王株式会社
株式会社カネボウ化粧品
株式会社資生堂
大日本印刷株式会社
ファイザー株式会社
エイブル株式会社
株式会社コーセー研究本部
株式会社帝国理化
住友化学株式会社
セリック株式会社
大鵬薬品工業株式会社
ピアス株式会社
ポーラ化成工業株式会社
ライオン株式会社

【商業展示】

株式会社アニマルケア
株式会社エル・エム・エス
株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
株式会社富士通九州システムエンジニアリング
倉敷紡績株式会社
セリック株式会社
株式会社エフェクター細胞研究所
株式会社メディシスサイエンス
住商ファーマインターナショナル株式会社

【広告】

エイブル株式会社
尾崎理化株式会社
セリック株式会社
東ソー株式会社
株式会社島津製作所
利根化学株式会社

(敬称略)

日本動物実験代替法学会第20回大会
大会長 酒井 康行

平成 18 年日本動物実験代替法学会 研究助成の申請結果について

企画委員会

・委員長:酒井康行(東大疾患セ・生産技研)
・委員:長谷川哲也(城西国際大),上月裕一(資生堂リサーチセンター),吉山友二(共立薬科大),土屋利江(国立医薬食研),塩見雅志(神戸大医学部動物実験施設),加藤真理(鎌倉女子大),鈴木聡(HAB 研究機構附属研)

今年の助成については、締め切り期日までに1件の応募があり、「平成 18 年日本動物実験代替法学会・研究助成の募集要項」の「5. 研究助成応募選考基準」に従って、企画委員会計8名にて審査を行いました。審査は、上記の「5」の4項目(文末に別記)について、各委員が個別の評価を行い、その総計で総合点を算出、適宜意見調整を行い最終決定しました。

その結果、平成 18 年の助成対象として、国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験評価センター・薬理部・新規試験法評価室・室長の小島 肇氏の申請研究「培養角膜モデルを用いた目刺激性作用機構の解明」に、100 万円の助成を行うことを決定、田中憲徳会長の承諾を得て、助成金交付を行いました。

本申請の選定の理由の概要は以下のとおりです。

「本研究計画は、学問的面白さにややかける点は否めないが、ヒト細胞を用いる培養角膜モデルは目刺激性試験の代替法としてその確立が期待されている。しかしながら、毒性発現メカニズムに着目した *in vivo* との整合性に関しては研究が不十分であるために、代替法としての評価が定まっていない。いくつかの類型的な化学物質の毒性発現メカニズムを各種生化学的指標にて評価するという本研究計画は、その代替法としての確立に大きく役立つことが期待でき、replacement に繋がる。」

なお、助成対象者の義務について、応募要領に記載がなされているので、以下に再掲します。代替法および学会の発展のために、遵守されることを強く望みます。「平成 18 または 19 年度の代替法学会年会にて発表を行い、論文として AATEX 誌に平成 19 年の 12 月末までに投稿し、採択された場合には別刷りを企画委員会に提出する。なお、発表にあたっては、本学会助成金の支援を得た旨を明記する。また、同じく平成 19 年の 12 月末までに企画委員会を通して研究成果の要旨を学会長に提出する。以上の義務を果たさない場合には、助成金の返却を求める。」

第6回国際動物実験代替法会議（WC6）の近況

事務局より

皆様すでにご存知のように、2007年8月、東京にて第6回国際動物実験代替法会議（WC6）が開催されます。確認のため、日時と場所を以下に示します。是非、今から来年の手帳に予定を入れておいてください。詳細は以下のホームページをご覧ください。

大会名：6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences : WC6 (www.knt.co.jp/ec/2007/wc6)

日時：平成18年8月21日(火)～25日(土)

場所：ホテルイースト21東京(東京都江戸川区)
(www.hotel-east21.co.jp/english/index.html)

主催：日本動物実験代替法学会

動物実験代替会議基金

(Alternative Congress Trust: ACT)

日本学術会議

世界の国々から動物実験の福祉や代替法の研究者約800名が東京に集うと予想しており、日本の暑い夏を舞台に熱い議論が交わされることを期待しております。また、アジアで開かれる初めての会議であることから、中国や韓国、台湾などから多くの研究者に参加頂き、アジアにおける動物実験の3Rs（削減、苦痛の軽減、置き換え）を盛り上げていく予定です。さらに、この会議の前には北京およびソウルで、後には京都および名古屋でサテライトシンポジウムの開催が予定され、25日午後には東京にて市民公開講座（無料）も予定されております。これらの情報も合わせHPにてご確認下さい。

現在、学会の中に幹事会を設立するとともに、他の協賛学会の責任者にも加わって頂き運営委員会を設立し、準備を進めています。学術的なプログラムの充実はもちろんのこと、多彩な行事や懇親会を企画中です。これらを通して、学会員の皆様におかれましても海外の研究者の方々と交流を深めて頂きたいと考えております。

ところで、会議を成功させるためには、まだまだ資金が不足しております。企業の先生方におかれましては、賛助、ブースの出展、広告など何でも結構です。ご協力頂ける方は事務局の国立医薬品食品衛生研究所 小島 肇までご連絡を頂ければ幸いです（電話番号：03-3700-9874、メールアドレス：h-kojima@nihs.go.jp）。

そして何よりのご願いは本国際会議にて参加し、ご発表頂けることです。発表演題をHPにて2006年12月1日～2007年3月31日までの間募集します。多数の演題を応募下さい。また、お得な早期参加登録を2006年12月1日～2007年5月31日まで行います。早期の場合、参加登録料が1万円引きの5万5千円となります。参加登録も合わせお待ちしております。

2007年8月、皆様と東京でお会いできる日を楽しみにしております。きっと、ここでしか得られない情報を収集できると思います。

WC6事務局 小島 肇
(国立医薬品食品衛生研究所、JaCVAM)

行事・接遇委員会より

明年、東京で開催される第6回世界動物実験代替法会議(WC6)に向けて、行事・接遇委員会では、日本国内外から参加される皆様に対し、アジア初開催の国際会議として心に残る会議となるよう、WC6事務局と連絡をとりながら活動しています。現在までに4回の会議を開催し、懇親会場の選定・ツアーの検討等を中心に検討を重ねてまいりました。今回の国際会議は、真夏の東京での開催ということで、暑い中での開催となりますので参加される皆様にできるだけ快適にお過ごしいただき、有意義な議論ができるよう今から十分検討していきたいと思っております。会議の行事として、特に、日が傾く午後から夜にかけて、皆様ごいっしょに東京江戸情緒を満喫していただくツアーを予定しております。また、芝白金の八芳園で、美しい日本庭園を見ながらの懇親会もご用意致しております。会議の熱気を冷まし、リフレッシュしていただければ幸い

と考えております。また、海外から参加される方々には、小旅行の手配もできる体制で対応させていただく予定です。行事・接遇委員一同、会員の皆様の多数参加を心よりお待ちしております。

現在、行事・接遇委員の数は6名と会議全体の接遇としては大変少ない状態です。行事・接遇委員として活動していただける会員の方がおられましたら是非ご協力をお願い致します。2007年8月の開催に向けて委員会としてこれから本格稼働させていただくこととなりますが、関係各位並びに会員の皆様方のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

行事・接遇委員会

委員長 岡本 裕子

((株)コーセー研究本部 基礎研究所
安全性・微生物研究G)

広報委員会より

第6回動物実験代替法世界大会(WC6)、12月1日から演題・参加登録開始

ご存知の通り、2007年8月21日(火)~25日(土)まで、東京都江東区のホテルイースト21東京にて、第6回国際動物実験代替法(6th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Science (WC6))が、アジア圏で初めて日本で開催されます。またその前後には北京・ソウル・京都・名古屋の4都市でサテライトシンポジウムが開かれます。

既に、この12月1日から演題および参加登録が始まっています。科学プログラム等の会議の概要も決定し、セカンドアナウンスメントも発行されたので、会員の方々にはこのニュースレターと共に

一部お送りさせていただきました。またHP(<http://www.knt.co.jp/ec/2007/wc6/>)にも同様の情報が掲載されております。詳細はこのアナウンスメントおよびHPをごらん頂きたいと存じます。重要な点のみ本稿の末尾に簡単に記します。

代替法をめぐる昨今の国内外の情勢を一言で言えば、ややゆっくりと進んできた開発が、具体的な規制へと結実しつつある、という総括ができ、国際的にも代替法学会への期待は高まっているといえると思います。たとえば国際的には、化粧品分野においてEU化粧品指令第7次改正(2003年3月)では、動物試験を実施した成分やそれを含む製品について、2009(急性毒性)~2013年(慢性毒性)にかけてEU域内での販売が原則禁止となります。ま

た一般化学物質についても REACH と呼ばれる新たな管理法体系が EU において稼動することが決定されつつあります。

しかしながら一方でアジア圏での開催ということで、参加者数に多少の懸念があります。従いまして、特に会員の皆様にはご自身が積極的にご参加・ご発表をしていただくだけでなく、周辺のご関連の方々に対しても、是非発表・参加を呼びかけていただきたく存じます。また様々な企業からのご援助も極めて重要です。このために、セカンドアナウンスメントが多数ご入用の際には、遠慮なく広報の酒井までお申し付けください。これは HP からダウンロードできるようにいたします。またポスターも作成中で完成次第、同様に HP よりダウンロードできるようにいたしますので、周辺に掲示をお願い申し上げます。

会議成功のために、会員の皆様のご協力を是非ともよろしくお願い申し上げます。

会議スケジュール概要

- 北京サテライトシンポジウム：
2007年8月19日(日)・20日(月)
- ソウルサテライトシンポジウム：
2007年8月20日(月)
- 東京会議
 - ・開会セレモニーとウェルカムレセプション：
2007年8月21日(火)夜
 - ・科学セッション：
2007年8月22日(水)～25日(土)
 - ・エクスカージョン：
2007年8月23日(木)午後から夜
 - ・バンケット：
2007年8月24日(金)夜
 - ・閉会セレモニー：
2007年8月25日(土)昼
 - ・市民公開シンポジウム：
2007年8月25日(土)午後

- 京都サテライトシンポジウム：
2007年8月26日(日)
- 名古屋サテライトシンポジウム：
2007年8月27日(月)

重要日程

- アブストラクト登録開始：2006年12月1日
- 参加登録開始：2006年12月1日
- アブストラクト締め切り：2007年3月31日
- 若手研究者への渡航助成申請締め切り：
2007年3月31日
- アブストラクト受理告知：2007年5月31日
- 早期参加登録締め切り：2007年5月31日
- ホテル予約締め切り：2007年7月21日
- オンライン登録締め切り：2007年8月7日

WC6 広報委員会 委員長 酒井康行
(東大疾患セ・生産技研)

日本動物実験代替法学会事務局
東京都文京区本郷 7-2-4 浅井ビル 501 号室 学会事務局
TEL:03-3811-3666 FAX:03-3811-0676
E-mail : gakkai@g-jimukyoku.jp

発行：日本動物実験代替法学会
会長：田中 憲穂
担当：広報委員会 委員長 秋田 正治
学校法人 鎌倉女子大学 家政学部 管理栄養学科
〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船六-1-3
TEL:0467-44-2111 FAX:0467-44-7131
E-mail:kiri@dance.plala.or.jp



幸せになる覚悟はある。

—行くわよ、ワタシ。深田恭子



[新発売] — その肌、宝石の輝き。 —

12種類の和漢植物エキス(トリートメント成分)配合

メナード 薬用リシアルEX

<医薬部外品>全7品

5,500円~6,500円(税込5,775円~6,825円)

気になる肌の色と質感、磨き上げられたように、美しく、自信が輝く、自慢の肌へ。

MENARD

商品のお求め・お問い合わせは、メナードレディまたはフリーダイヤル、メナードホームページまで。

☎ 0120-164601 www.menard.co.jp

[全国共通・無料] 受付時間 9:00AM~8:00PM(日曜・祝日を除く)

オリエンタル酵母工業(株)は各種変異原性試験用試薬を取り揃えております。是非お試し下さい。

変異原性試験用試薬

全ての製品群に対して実用試験による品質管理をしております。安心してお使い下さい。

エームス試験用 デスメディアAN培地

- 本培地は労働省化学物質調査課編のガイドブック「安衛法における変異原性試験」に従って調製された微生物を用いる変異原性試験(エームス試験)に使用する最少グルコース寒天培地の生地培地です。
- 製品は厳しい品質管理を行っています。常に均一な培地をいつでもご利用頂けます。
- エームス試験のデータ付
包装：100枚/箱/10枚/袋×10袋

エームス試験用陽性コントロール ポジヨシAMマルチセット



- 使用濃度に調製済みです。
- 融解後そのまま必要量をシャーレに添加できます。
- エームス試験データ、濃度分析データ付
包装：0.7mL×10

セット内容

	濃度	溶媒	本数
2AA	5 μ g/mL	DMSO	1本
	10 μ g/mL	DMSO	1本
	20 μ g/mL	DMSO	2本
	100 μ g/mL	DMSO	1本
AF-2	0.1 μ g/mL	DMSO	2本
	1.0 μ g/mL	DMSO	1本
NaN ₃	5.0 μ g/mL	注射用水	1本
9AA	800 μ g/mL	DMSO	1本

新製品 エームス試験用寒天 NBR Agar (Certified Agar for Minimum Glucose Agar Plate Medium)

各省庁ガイドラインに示されているエームス試験にて使用される最少グルコース寒天平板培地のために開発した寒天です。

- 変異原性が微弱なケルセテンに対して用量依存の反応を示します。
- 厳選した原料にて製造し、12項目の規格検査に合格し、ロット間差の少ない製品としてお届けします。
- エームス試験のデータ付
包装：500g



Cofactor-I (S-9 Mix用)

調製方法を変えることにより、
各種S-9濃度のS-9Mixが調製できます。
(調製例) Cofactor-Iパイアルに9mLの精製水を入れよく溶解する。
↓
フィルターろ過滅菌を行う。
↓
S-9 1mLを加え10mLにメスアップする。

- エームス試験のデータ付
包装：9mL用 Cofactor粉末×10本

S-9 ラット肝ホモジネート

「S-9」の調製方法
オリエンタルのS-9はSPF環境下で飼育された7週令のSprague-Dawleyラットの雄(体重180g~200g)に誘導剤としてPhenobarbital及び5,6-Benzoflavoneを併用投与した肝臓を無菌的に抽出し、ホモジネートした後、9,000×gで遠心分離しその上清分画(S-9)を集めます。調製方法はAmesらの方法(1975)に準じています。

- エームス試験のデータ付
包装：2mL用×10本

S-9/コファクターAセット

エームス試験用の無菌凍結コファクターとS-9のセットです。

- エームス試験のデータ付
包装：S-9(ラット肝ホモジネート)：1mL×10本
コファクターA：9mL×10本

S-9/コファクターCセット

染色体異常試験用の無菌凍結コファクターとS-9のセットです。

- 染色体異常試験データ付
包装：S-9(ラット肝ホモジネート)：2mL×3本
コファクターC：4.7mL×3本

販売元 **和光純薬工業株式会社**

本社：〒540-8605 大阪市中央区道修町三丁目1番2号
東京支社：〒103-0023 東京都中央区日本橋本町四丁目5番13号
フリーダイヤル：0120-052-099 フリーファックス：0120-052-806
URL：http://www.wako-chem.co.jp
E-mail：labchem-tec@wako-chem.co.jp

発売元 **オリエンタル酵母工業株式会社**

バイオ事業本部
〒174-8505 東京都板橋区小豆沢3丁目6番10号
TEL.03-3968-1192 FAX.03-3968-4863
URL：http://www.oyc-bio.jp
E-mail：fbi@oyc.co.jp